



# 2019年12月期 第1四半期 決算説明会

代表取締役 社長執行役員 富安 司郎

2019年5月16日



1. 2019年12月期 第1四半期業績の概要
2. 国内外市場の動向
3. 2019年12月期 業績予想
4. トピックス

## ■ 2019年12月期第1四半期実績

### <前年同期比>

- 売上高 : 国内) 前年同期に大型施設工事があった反動により減少  
海外) 北米・欧州堅調も、中国・アセアンが現地在庫調整により減少
- 営業利益 : 減収による粗利益の減少はあるも、前年にあった一時的要因がなくなり利益率改善。販管費削減もあったが△2億円

### <計画比>

国内売上高未達も、販管費の削減等により収益はほぼ計画通り

1. 2019年12月期 第1四半期  
業績の概要



# 連結業績の概要

(単位: 億円、%)

	18/12期		19/12期		前年 同期比	計画比
	1Q実績	比率	1Q実績	比率		
売上高	368	100.0	333	100.0	△35	△14
(国内)	284	77.1	254	76.2	△30	△20
(海外)	84	22.9	79	23.8	△5	+6
営業利益	△6	△1.6	△8	△2.2	△2	±0
経常利益	△9	△2.5	△11	△3.3	△2	△1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△3	△0.9	△4	△1.4	△1	△1
為替 レート (円)	米ドル	110.1	110.5		+0.4	+2.5
	ユーロ	134.3	126.3		△8.0	+1.3

# 国内売上高

ISEKI

前年同期比

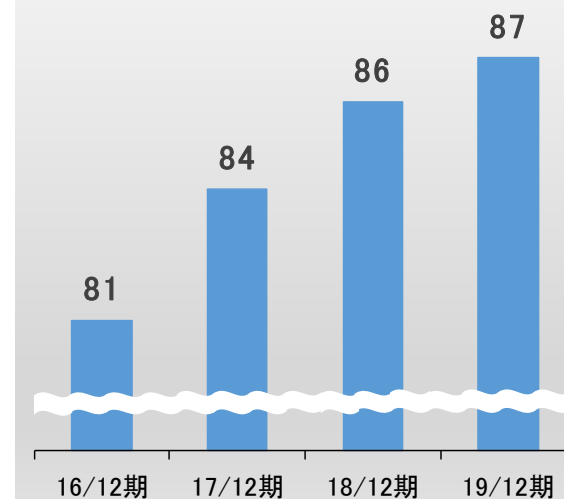
△30億円

作業機、部品、修理収入は引続き堅調  
 施設工事は前年にあった大型工事がなくなったことにより減収

(単位:億円)

		18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	前年同期比		計画比	
					備考		
農機 関連	農機製品	整地機	72	67	△5	トラクタ:△4	△7
		栽培機	22	22	±0		△2
		収穫調製機	28	28	±0		±0
		小計	122	117	△5		△9
	作業機 部品 修理収入	作業機	49	49	±0		△2
		部品	27	28	+1		△1
		修理収入	10	10	±0		△1
		小計	86	87	+1		△4
	計	208	204	△4		△13	
	施設工事	27	6	△21		△3	
その他農業関連	49	44	△5		△4		
合計	284	254	△30		△20		

【作業機、部品、修理収入推移】  
 (1~3月ベース、億円)



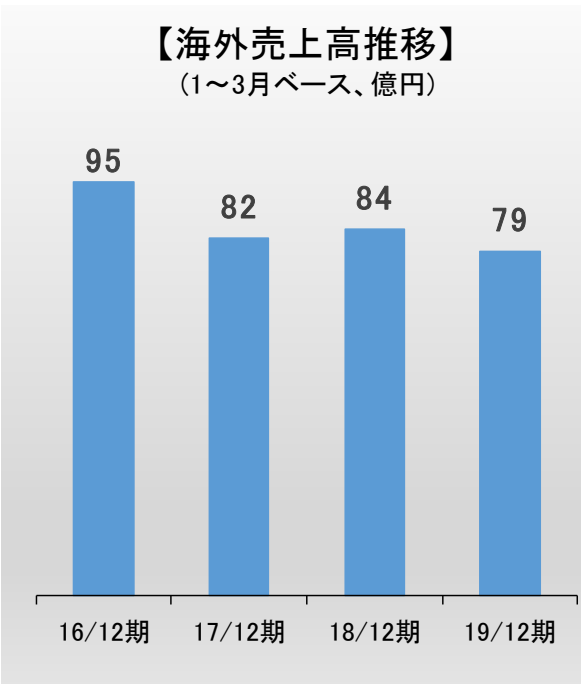
# 海外売上高

前年同期比  
△5億円

北米、欧州は引続き堅調  
中国やアセアンでの現地在庫調整により減収

(単位:億円)

	18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	前年同期比		計画比
				備考	
北米	25	28	+3	トラクタ: +3	△2
欧州	25	24	△1		+5
中国	7	0	△7	現地在庫調整 田植機: △6	△1
アセアン	10	6	△4	タイでの現地在庫調整 トラクタ: △3	+2
その他	9	11	+2	韓国: +2	+1
製品計	76	69	△7		+5
部品その他	8	10	+2		+1
連結売上高合計	84	79	△5		+6



# 営業利益

前年同期比

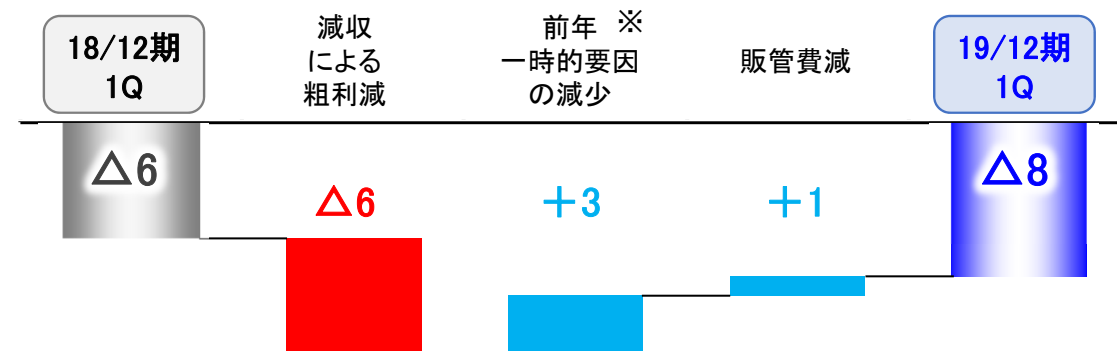
△2億円

前期一時的要因がなくなったこと等により利益率改善  
減収による粗利減で前年同期比減益

(単位:億円、%)

	18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	前年 同期比	計画比
売上高	368	333	△35	△14
売上総利益	99	96	△3	△4
粗利率	27.0%	28.9%	+1.9%	+0.1%
販管費	105	104	△1	△4
人件費	62	61	△1	△2
その他経費	43	43	±0	△2
営業利益	△6	△8	△2	±0

## 【営業利益増減内訳(前年同期比)】



※前年一時的要因: 子会社合併に伴う退職給付原則適用等の一時的負担の減 +2  
施設不採算工事による採算悪化の減 +1

## 【為替影響(億円)】

売上	原価	販管費	営業利益
△1	△1	-	±0



# 経常利益、四半期純利益

ISEKI

経常利益  
前年同期比  
△2億円

持分法投資損失や為替差損の計上等により減益

(単位:億円)

	18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	前年 同期比	計画比
営業利益	△6	△8	△2	±0
金融収支	△2	△2	±0	±0
その他営業外損益	△1	△1	±0	△1
経常利益	△9	△11	△2	△1
特別利益	0	0	±0	±0
特別損失	0	0	±0	±0
税前利益	△9	△11	△2	△1
税、税調整額	6	7	+1	±0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△3	△4	△1	△1

営業外損益増減内訳(前年同期比)

為替差損益	+2億円
持分法投資損益	△2億円

【持分法投資損益増減】

(単位:億円)

18/12期	19/12期	増減
△2	△4	△2

# バランスシート(連結)

ISEKI

前年  
同期末比

売上高減少により売上債権は減少、棚卸資産増加  
一方、設備投資、関係会社向け貸付金の増加により有利子負債増加

(単位:億円)

	18/3月末	19/3月末	増減		18/3月末	19/3月末	増減
現金	84	81	△3	仕入債務	444	437	△7
売上債権	324	280	△44	有利子負債	749	769	+20
棚卸資産	565	582	+17	(内借入金)	(683)	(690)	(+7)
その他流動資産	26	58	+32	(内リース債務)	(66)	(79)	(+13)
(内短期貸付金)	(0)	(28)	(+28)	その他負債	218	221	+3
流動資産計	999	1,001	+2	負債計	1,411	1,427	+16
有形固定資産	956	975	+19	純資産	691	679	△12
無形固定資産	11	12	+1	(利益剰余金)	(155)	(158)	(+3)
投資その他資産	136	118	△18	(有価証券評価差額金)	(12)	(5)	(△7)
(内投資有価証券、出資金)	(88)	(72)	(△16)	(為替換算調整勘定)	(10)	(9)	(△1)
固定資産計	1,103	1,105	+2	負債・純資産計	2,102	2,106	+4
資産合計	2,102	2,106	+4				

## 2. 国内外市場の動向



# 国内農機市場の動向



## 国内農機需要は横ばい

■ 農機需要〔業界出荷〕(主要9機種・移動年計)



※主要9機種：トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、籾摺機、バインダー、ハーベスター、トリートメント  
出所：日農工出荷統計より当社推計

# 国内農機出荷と当社状況

ISEKI

国内  
農機需要

当社実売は前年並み

主要9機種 前年伸長率(金額、移動年計) ※当社推計

(単位:%)

		2017/3月	2018/3月	2019/3月
業界	(出荷金額)	101%	100%	104%
当社	(実売金額)	91%	101%	99%

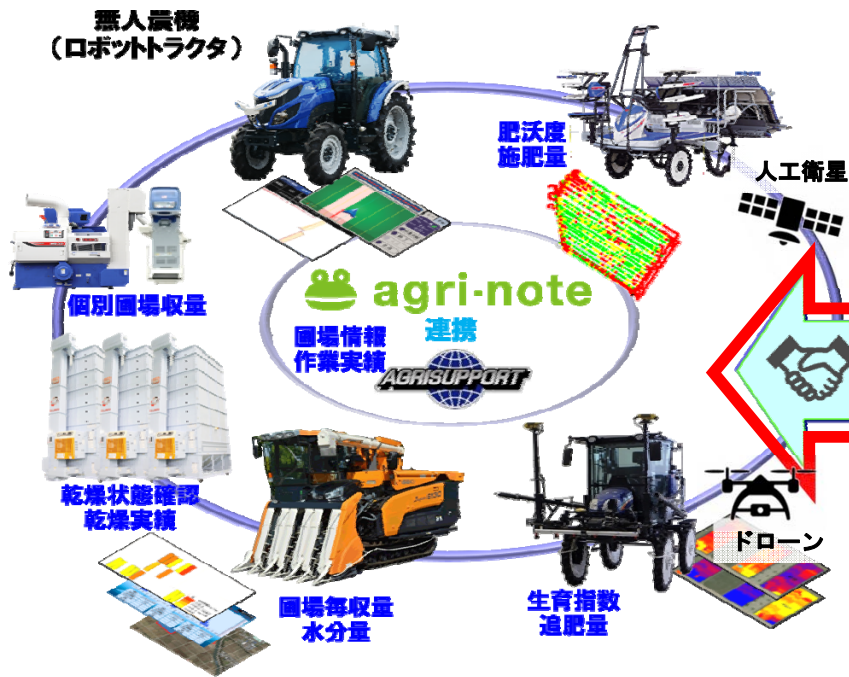
※主要9機種:トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、籾摺機、バインダー、ハーベスター、トリートメント

# オープンイノベーション体制

スマート農業

水稲作におけるスマート農業機械化一貫体系の提供へ  
生育管理・生育診断商品の取扱いを開始

## 《当社のスマート農機》



※研究中のものも含む

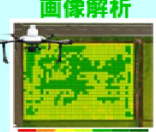
## 取扱い開始《生育管理・生育診断商品》

### 生育管理



①バディーウォッチ  
(ベジタリア株式会社)

### 生育診断 画像解析



③IROHA  
(株式会社スカイマティクス)



④天晴水  
(国際航業株式会社)

水稲用 水位・水温センサー

》スマホ、パソコンで遠隔地から水位、水温を監視

多機能型自動給水機

》自動で給水栓を開閉。

水管理作業省力化、節水効果

葉色解析クラウドサービス

》ドローン画像を解析し農地の状況を記録  
毎日の葉色の確認を容易にし、きめ細やかな  
生育管理を実現

営農支援サービス

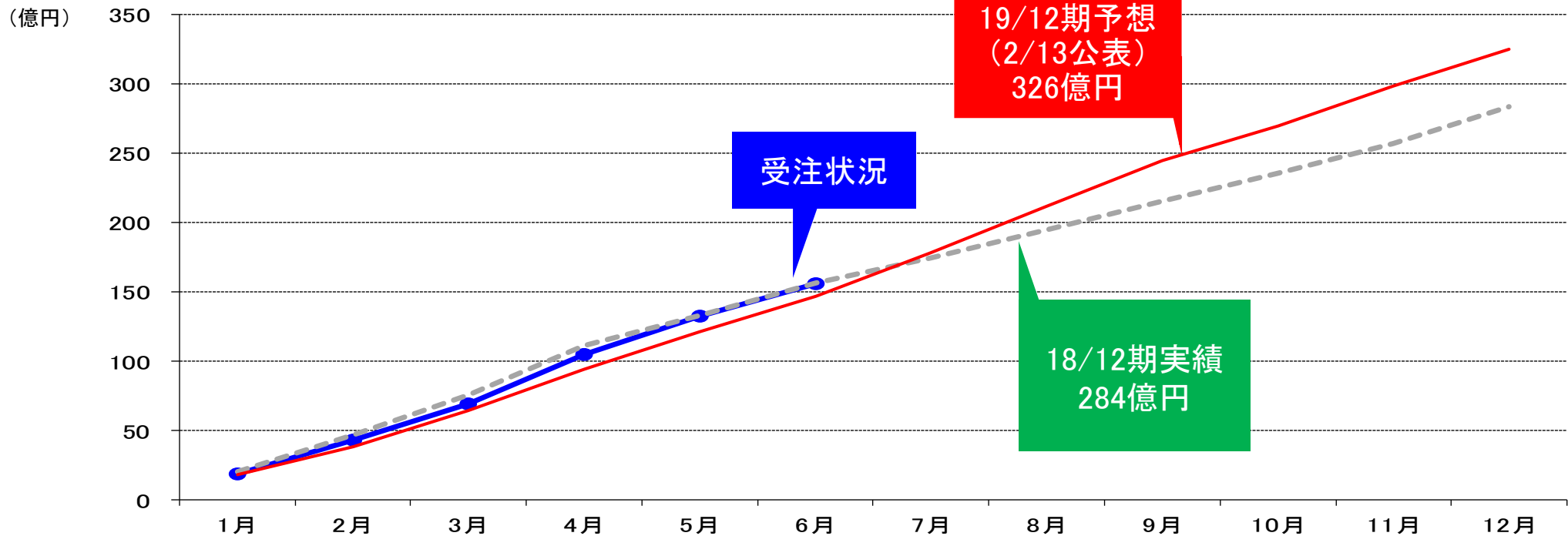
》人工衛星やドローン画像を解析し生育状況を診断  
たんぱく含有率や籾水分率等を把握

# 海外製品売上の直近状況

ISEKI

海外  
受注状況

ほぼ計画通りに推移



※製品ベース。「部品 その他」は含まず

# 海外市場の動向(北米)

北米

AGCO社実売はコンパクト、ユーティリティともに市場を上回って推移  
 当社受注もAGCO社の好調な実売を受け、コンパクトを中心に堅調

## 1. 市場の動向

(単位:千台、%)

区分(PTO馬力)	40HP以下 (コンパクト)	40~100HP (ユーティリティ)	100HP以上
2018年1-3月	29	13	4
2019年1-3月	31	12	4
増減率	109%	97%	94%

(出所:AEM統計)

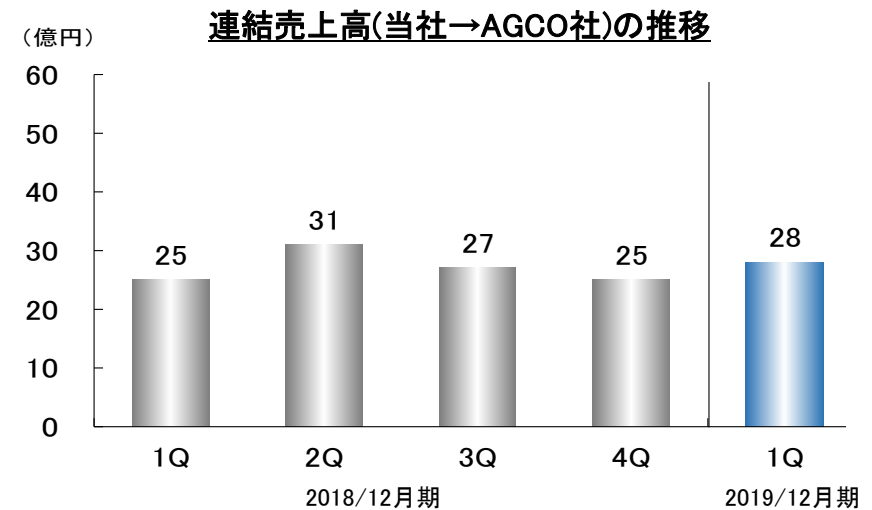
## 2. AGCO社(OEM先)の状況

実売台数(19/1-3月)

- コンパクト : 前年同期比 117%
- ユーティリティ : 前年同期比 100%

## 3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(19/1-6月) : 前年同期比 113%





# 海外市場の動向(欧州)

欧州

景観整備市場は天候要因が業績にフォロー  
当社受注は下期モデルチェンジを控え前年同期比減少も計画通り

## 1. 市場の動向

景観整備市場は、降雪量の増加により、ドイツ、北欧を中心にウィンタービジネスが好調。また、春先の天候は良好で芝刈機需要に期待。一方、ユーロ圏全体の経済回復ペースは鈍化。英国のEU離脱問題もあり先行きに注視。

## 2. 現地の実売状況

### ➤ 実売(19/1-3月)

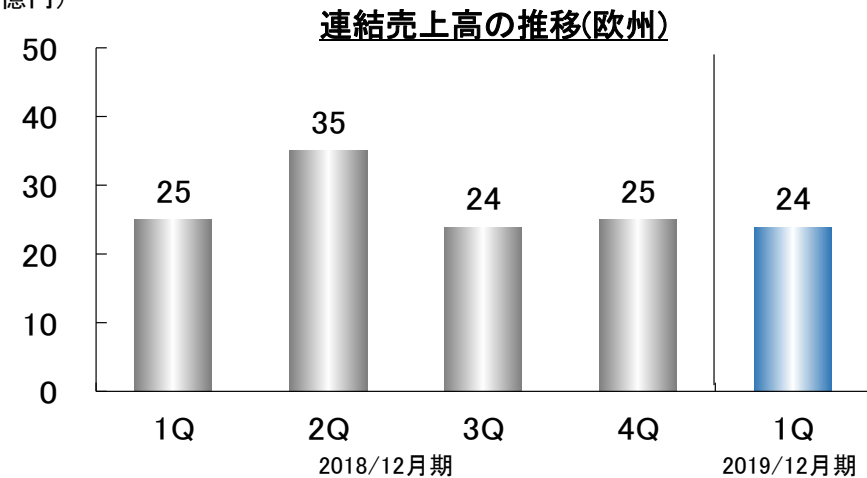
・現地販売代理店 : 前年同期比 110%  
(台数ベース)

## 3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(19/1-6月) : 前年同期比 77%  
: 計画比 100%

・モデルチェンジ(トラクタ)を控えた出荷抑制整が影響するも、現地実売好調、新商品投入により下期挽回見込み

(億円)



タイ

他社販売金融拡大などにより販売競争激化

## 1. 市場の動向

ユーザー向け頭金ゼロなどの販売促進が進み競争激化。

## 2. 現地販売会社〔IST Farm Machinery〕の状況

【三菱商事80%、当社20%出資】

現地実売台数

（アセアン戦略トラクタ、19/1-3月）：前年同期比 88%

## 3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(19/1-6月)：在庫調整により大幅減  
・当社はIST社の仕入抑制による大幅減も、流通在庫の消化は進む



# 海外市場の動向(アセアン:その他)

ISEKI

アセアン  
その他

ISEKIタイランドによる営業・サービス体制の強化、  
その他地域でのパートナーとの連携により販売拡大を図る

## ■インドネシア

### ➤ 市場動向

2015年から続く政府主導の機械化推進(政府入札)。  
2019年も政府入札は継続も大統領選挙で様子見。  
選挙も終了し現政権継続の方向。下期の入札に期待。

### ➤ 当社状況

4月までは例年並みの受注を獲得。  
販売代理店の営業・サービス支援を強化。今後のマーケット拡大を想定し、ISEKIタイランドをベースとした補修部品供給体制構築に着手

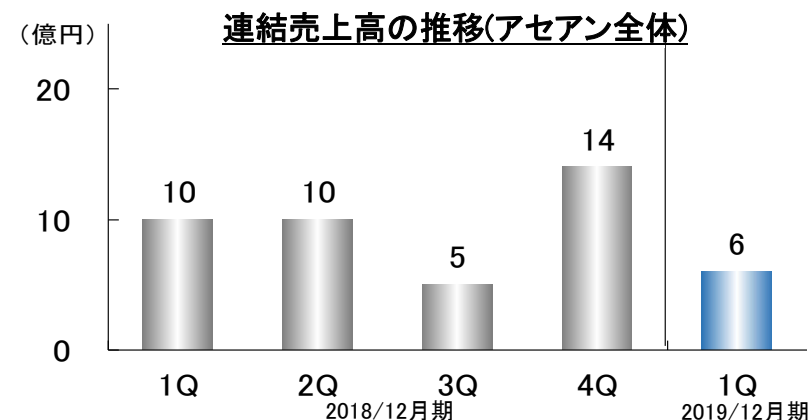
## ■その他(ミャンマー等)

### ➤ 市場動向

機械化進展により需要が見込める。

### ➤ 当社状況

ISTおよびAGCO社が持つ販売網を活用し、  
アセアンでの販売拡大を目指す。



# PT.井関インドネシア(生産子会社)



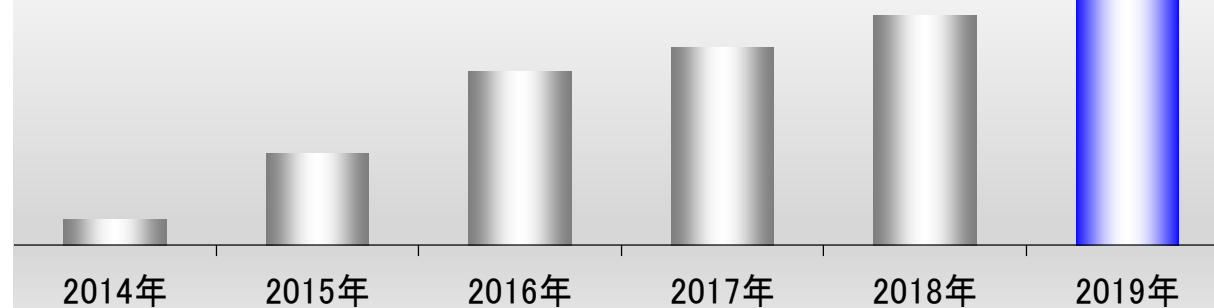
PT.井関  
インドネシア

1~3月の生産台数、営業利益は計画通り  
海外で稼ぐためのベース基地として収益体質強化を一層図る

(単位:台、億円)

	2014年 実績	2015年 実績	2016年 実績	2017年 実績	2018年 実績	2019年 計画	2019年 1-3月
生産台数	1,100	3,900	7,300	8,400	9,700	12,000	3,135
営業利益	△3	△4	△3	3	1	3	0.5

《生産台数推移》



# 海外市場の動向(中国)

中国

米麦買入れ価格は低水準で推移しており、市場の回復にはまだ時間を要す

## 1. 中央政府補助金

(単位:億元)

2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
215	217.5	238	238	237	186	186	180

## 2. 2019年1~3月農機業界の動向(前期比、台数)

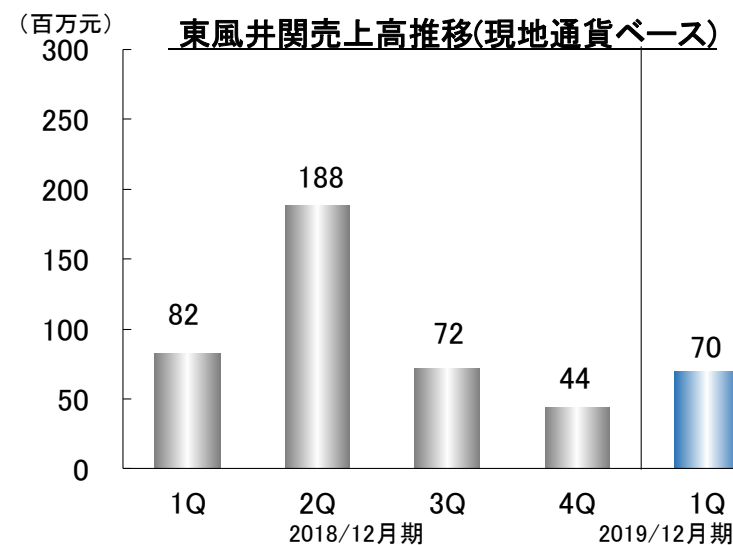
(単位:%)

	業界※
田植機(乗用)	△ 30%
コンバイン(汎用、自脱)	+ 2%
トラクタ(大中型)	+ 2%

※(出所)中国農業機械工業協会

## 3. 東風井関の状況

➤ 中国国内販売は、田植機が大幅減



### 3. 2019年12月期 業績予想



# 2019年12月期 連結業績予想

業績  
予想

当初予想から変更なし

## 連結業績予想

(単位: 億円)

	18/12期 実績		19/12期 予想 (2月13日公表)		前期比	
	2Q累計	通期	2Q累計	通期	2Q累計	通期
売上高	822	1,560	818	1,640	△ 4	+ 80
営業利益	22	32	19	40	△ 3	+ 8
経常利益	18	26	16	26	△ 2	± 0
親会社株主に帰属する 当期純利益	16	11	14	16	△ 2	+ 5

※19/12期想定為替レート  
米ドル108円(継続)、ユーロ125円(継続)

## 為替感応度(営業利益、通期計画ベース)

	19/12期
米ドル	7
ユーロ	15

(単位: 百万円)

## 4. トピックス





5月11～12日開催、於) 新潟市

## (1) 全体テーマ

「農業・食品分野の持続的可能性に向けて  
— 新たな課題とグッドプラクティス —

## (2) 主要論点

- ①次世代の農業を担い革新を起こす人づくりと新技術
- ②フードバリューチェーン全体に着目した農家等の収益向上策等
- ③SDGsの達成に向けた、関係者の対応方法



Downloaded in collaboration with TROLLBÄCK • COMPANY TheGlobalGoodHub.com | 1 212 528 1010  
For queries on usage, contact: sdg@trollback.com

持続可能な農業へ → 「スマート農業」

が課題の解決策の一つとして議論に

## ◆スマート農業紹介

### 【現地視察】

- ✓ ロボットトラクタ実演
- ✓ 自動運転田植機実演（農研機構※）
- ✓ 可変施肥田植機展示
- ✓ 企業間連携実証プロジェクト紹介
- ✓ ドローンによる農薬散布実演 等

※農研機構：農業技術革新工学センター



## ◆農業女子プロジェクト紹介



## 13回連続最高ランクの格付取得

株式会社日本政策投資銀行より、13回連続で最高ランクの格付「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価



### <今回の格付での評価ポイント>

- 1) 事業を通じた価値創造プロセスを情報開示の潮流を踏まえ開示している
- 2) サステナブルなサプライチェーン構築に向けた取り組み高度化に努めている
- 3) 新たなソリューションの提供により、国内外の農業従事者支援を継続している

ポイント: 農業の構造変化に対し、新たなソリューションの提供により、国内外の農業従事者支援を継続

## 農業の構造変化

- 農業就業人口の減少
- 大規模化
- 作付け転換 等



## 新たなソリューション提供

- スマート農機  
ロボットトラクタ、収量コンバイン  
直進アシスト・可変施肥田植機 等
- 営農ソフト  
稲作機械化一貫体系の提案  
スマート農業普及に向けた提案・サポート
- GAP認証取得支援 等

\* GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理)  
農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の  
持続可能性を確保するための生産工程管理の取組み

# 将来の見通しに関する記述についての注意

ISEKI

- ・本資料は、情報提供を目的として作成しており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、潜在的リスクや不確実性が含まれており、経済情勢や市場動向の変化等により実際の結果と必ずしも一致するものではありません。
- ・ご利用に際しては、ご自身の判断でお願い致します。

本資料に掲載している業績予想や目標数値に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。



安心を、未来へつなぐ食料自給率1%アップ運動  
**FOOD ACTION NIPPON**

井関グループは FOOD ACTION NIPPON の推進パートナーです。



未来の  
ために、  
いま選ぼう。

井関グループは、  
環境省による地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を  
促す国民運動である【COOL CHOICE】の取組みに賛同しています。  
「賢い選択」の提案として「エコ商品」など  
環境に配慮した商品の開発普及を推進しています。